

⑥ Int.Cl.<sup>4</sup>A 61 K 35/84  
A 23 L 1/212

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

7138-4C  
8515-4B

④ 公開 昭和62年(1987)1月21日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑤ 発明の名称 椎茸靈芝の製造法

⑪ 特 願 昭60-153145

⑫ 出 願 昭60(1985)7月10日

⑬ 発 明 者 森 田 弥 三 弘 甘木市大字持丸184の2

⑭ 出 願 人 森 田 弥 三 弘 甘木市大字持丸184の2

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

椎茸靈芝の製造法

## 2. 特許請求の範囲

シメジ科マツオオジ属シイタケのエキスを種々のサルノコシカケ科マンネンタケ(姿のままの靈芝)の中に真空含浸し真空包装滅菌した椎茸靈芝の製造法

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は椎茸の有効成分と靈芝の有効成分の相乗効果と靈芝の姿を見ることによる精神的効果をねらった発明である。椎茸の有効成分は、エキスにすることによって人体に最も吸収される。

椎茸エキス中エルゴステロール、エルダデニンの作用について特筆すべきことは、エルゴステロールは、光線をあてるか、熱をかけることによりビタミンD<sub>2</sub>に変化する。

エルダデニンの作用としては血液中のコレステロールを除去する。その結果種々の薬効を奏する。

椎茸に含まれている酵素群は下記の通りである。

B-1-3: グルカナーゼ、キチナーゼ、エステラーゼ、リパーゼ、レシチナーゼ、タンナーゼ、ペクターゼ、サッカラ

ーゼ、インペルターゼ、マルターゼ、トレハララーゼ、セルラーゼ、セロビアーゼ、チターゼ、ジアスターゼ、イヌラーゼ、ラフィヤーゼ、グルコシダーゼ、アミグタラーゼ、レンニン、エムルシン、トリプシン、エレプシン、ウレアーゼ、アスパラギナーゼ、フェノラーゼ、チロシナーゼ、パーオキシダーゼ、ラッカーゼ、チマーゼ、ギコラーゼ、フマラーゼ、ルチフェラーゼ、リチエナーゼ、カタラーゼ、リグニナーゼ

## A. 椎茸靈芝の薬理作用

- ① 中枢神経系では鎮静作用(鎮痛作用)
- ② 循環系に対する作用として、強心作用血圧降下作用
- ③ 血液中のコレステロールを除去す  
(エルダデニンの作用)
- ④ ガン細胞に対して免疫を高める—多糖体の免疫作用及び高貴薬靈芝の姿を見ることによる精神的免疫作用
- ⑤ エルゴステロールが熱及光線によりビタミンD<sub>2</sub>に変化する。
- ⑥ 肝臓の保護作用として耐受酵素欠乏能力を高める。
- ⑦ 呼吸系統に対する作用として慢性気管支炎に対して気管支膜上皮の修復作用を促進する。
- ⑧ ウイルスの抗体を作る。

B. ガン細胞に対する免疫効果の検定は移植癌を問題にせず、自然発生癌を対照にした。

- ① 椎茸靈芝を投与したネコ群と投与しないネコ群をガンウィルスに自然感染させることにより白血病にかかる率を調査した。

試験ネコはフォクマ抗体を血液中にもたないネコを集め隔離繁殖させ十匹をA群とし、十匹をB群とし、隔離しA群には椎茸靈芝をアルカリイオン水にて煎出10CC 3回飲用、食餌はA群には麦飯、イリコ、ワカメの味噌汁(飲料水、調理水はすべてアルカリイオン水)又、B群には牛乳、肉を主食とし、米飯を副食とした飲料水は水道水とした。

6ヶ月飼育の後、フォクマ抗体を持ったネコ三匹を両群中に入れるにB群のネコは10日後血液検査により(ギムザ染色)白血病と診断した。

発病後7日～10日にて10匹共死亡した。A群は一匹も発病しなかった。しかし、フォクマ抗体は血液中に発見した。

A群の血液中にフォクマ抗体を発見したことは、A群10匹白血病にかかったが発病しなかったことを意味する。

#### C. 椎茸靈芝の効力

- ① ガン細胞に対する免疫を高める多糖体による免疫と共に高貴藥靈芝の姿を見ることにより、精神作用によって免疫を高める。
- ② 中性脂肪の顕著な減少  
中性脂肪の正常値54～155であるが、232の人が3ヶ月飲用によって135になった。
- ③ 本態性高血圧の降下、正常値上140、下80であるが上180、下100の人が2週間後上140、下80になった。
- ④ 肝炎治験例効果率は98%であった。
- ⑤ 糖尿病治験例効果率は90%であった。
- ⑥ 慢性気管炎治験例効果率は98%であった。
- ⑦ 狭心症治験例効果率は90%であった。
- ⑧ 神経衰弱治験例効果率98%であった。
- ⑨ アレルギー全般
- ⑩ 腎臓機能不全
- ⑪ 胃及十二指腸潰瘍
- ⑫ 慢性関節リウマチ
- ⑬ 原因不明の便秘
- ⑭ 風邪ウィルスの抗体を作る

- ② 肺癌患者に投与

55才男性 右肺上葉を切除、リンパ節転移のため抗癌剤を投与し一本静脈注射するに副作用強く中止、椎茸靈芝、アロエ靈芝食事療法により全治

- ③ 肺癌 — 右肺癌

切開不能のため放射線治療

抗癌剤治療、丸山ワクチン治療、副作用強力のためすべて中止、椎茸靈芝、アロエ靈芝、食事療法のみにて三年間延命中

- ④ 肺癌 右肺三葉除去 50才男性

手術後輸血によりウィルス性肝炎を併発、安静療法を行い病院を3回変えるも治癒しないため椎茸靈芝、アロエ靈芝、食事療法を行う。

現在4年延命

- ⑤ 胃癌 84才女性 10年前切開除去

手術後食欲なく骨と皮の状態が6ヶ月続いたが椎茸靈芝アロエ靈芝、食事療法により現在全治

- ⑥ その他500人の治験例あるもすべて手術、放射線、抗癌剤、免疫療法と併用したものである。

治験例60%(効果率)化学療法の副作用による死亡と判断出来るものが多い。

- ⑬ 胆石—コレステロール除去作用による

- ⑭ 水痘瘡

- ⑮ 痔—肛門周辺の静脈の鬱血の原因であるコレステロールの除去作用による

- ⑯ くる病 ビタミンD<sub>2</sub>による

- ⑰ 骨軟症

- ⑱ 蓄膿症

- ⑲ 歯槽膿漏

- ⑳ 痛風

- ㉑ パーキッド腫瘍

- ㉒ 白血病

- ㉓ 脾臓炎

- ㉔ 冷え症 — 血液の流れを良くする。

- ㉕ 不眠症 — 脳の鬱血状態をとり去る。

- ㉖ 角膜症

- ㉗ 脱毛症

- ㉘ 皮膚炎

- ㉙ 水虫

- ㉚ 床ずれ

- ㉛ 貧血—ビタミンB群による

- ㉜ 美肌—血液の流れを良くする為である

⑤ 血栓症に効果

お血や血栓を防ぐ作用がある。

⑥ 心筋梗塞に効果

⑦ 動脈硬化に効果

⑧ 低血圧の正常化